



司書おすすめの本



図書館スタッフがみなさんにおすすめしたい本を紹介しています。
長期貸出を利用してゆっくり読んでみてはいかがでしょうか。



目次

新書/韓国を知る

P.1

こころ

P.2

歴史/お金のこと/働くこと

P.3

芸術/身体/建築/ゲーム/数学

P.4

社会について

P.5

書店員/詩・短歌

P.6

文学

P.7-9

新書



いますぐ書け、の文章法

堀井憲一 著

文章術を教える本ではないですが、何だか自分も書けるような気にさせてくれる本です。私も持っていますが、どうしても文章を書かなければならない時は開いてしまいます。



検証ナチスは「良いこと」もしたのか？

小野寺拓也、田野大輔 著

話題の本。母親への経済的支援、託児所などの働く女性への支援、自然保護、動物保護…これらは全てナチスの行ったことですが、一見「良いこと」のように思えます。「良いこと」のように思える事例を一つ一つ検証すると、そこに見えてきたものは…ゾッとすることでした。憶測や思い込みで判断することの危険性を教えてください。



女は男の指を見る

竹内久美子 著

「人差し指に対して薬指が長い男性は、収入が高い傾向にある」そうです。指、匂い、声…惹かれるのには理由があり、世の女性は、無意識に優秀な遺伝子を持つ男性を選別しているのです！本書ではモテるオスの秘密や、生物の繁殖戦略など、動物行動学や遺伝子の研究データをもとに読みやすく興味深く書かれています。

韓国を知る



ソウルおとなの社会見学

大瀬留美子 著

ソウルというと、現代的なビルとキラキラした商業施設を思い浮かべますが、実は史跡や歴史が感じられる場所が所々にあるようです。ひととおりキラキラを味わったら、こんな渋めな観光をしてみてもいいかもしれません。



韓国の「街の本屋」の生存探究

ハン・ミファ 著；渡辺麻土香 訳

近年、韓国では街の本屋さんが続々とできていて、その個性を競い合っているようです。日本と同じ出版不況、活字離れのなか、いかに持続的な経営を行えるかに頭を悩ませながらも、自国の文化を支えたいという情熱が感じられます。



搾取都市、ソウル 韓国最底辺住宅街の人びと

イ・ヘミ 著；伊東順子 訳

韓国のカルチャーが好きで楽しんでいる方は多いかもしれません。私もその中の一人です。ある時、韓国の映画や文学は貧困問題を知らないとは理解できないのでは？と気づきました。「推し活」を単なる文化の消費に終わらせたくないなら、その国の社会問題を知ることをおすすめします。

006



アイコンをクリックすると本の詳細画面が開きます



こころ



「めんどくさい」がなくなる本 読んだらスツとラクになる

鶴田豊和著

作者は、元マイクロソフト社で人事を担当していた福岡在住の行動心理コンサルタント。なんだかダルいなあ、めんどくせえなあと思ったら、軽い気持ちで手に取ってみてください。



はかれないものをはかる

工藤あゆみ著

タイトルの通り、「はかれないもの」がたくさんできてきて、それをもし「はかる」としたら…と思うと心がキュツとしたり、ほわっとしたりするような「もの」がたくさんできます。静かな落ち着いた時間に読みたい本です。



HSPとうつ自己肯定感を取り戻す方法

高田明和著

「人というのは楽しいけど、なんだかすごく疲れる。むしろ一人でいる方が落ち着く。私って冷たい人間？」心当たりのある人は最近よく聞く「HSP」の特性が強い人かもしれません。自己嫌悪で疲れ切ってしまう前に対策を練ろう！

釣藤散



呪いの言葉の解きかた

上西充子著

呪術でなくても私たちはあらゆる言葉で縛られています。

呪いからの解放の第一段階はどのように、なぜ、縛られているかを知ること。

第二段階は自分を元気づけてくれる「灯の言葉」を知ること。

第三段階は呪いから解き放ってくれる「湧き水の言葉」を知ること。

すべてこの一冊の中にあります。



料理と利他

土井善晴, 中島岳志著

「利己」でも「他力」でもなく「利他」。ステイホーム期間に一汁一菜を提唱する料理家・土井義晴と政治学者・歴史学者である東工大リベラルアーツ研究教育院教授・中島岳志が料理を通して「利他」について語り合ったオンライン対談を再現。

料理に興味がある人にも、利他って何？って思った人にもおススメします。

「利他」についてもっと知りたい！と思った人へ…

- ①「利他」とは何か/伊藤亜紗
- ②はじめての利他学/若松英輔
- ③思いがけず利他/中島岳志



「ついやってしまう」体験のつくりかた 人を動かす「直感・驚き・物語」のしくみ

玉樹真一郎著

はじめてスーパーマリオをプレイした人が、どうして迷うことなく右に進むことができるのか。右に進もうと自然と動かされるのか。世のなかには、あなたの知らないところでたくさんの体験がデザインされています！と書くとき少し大げさになりますが、その一つひとつのデザインを紐解くことで、私たちが何に心を動かされて、無意識にそれを選択してしまうのか、心が動かされる体験とは何かがぼんやり見えてきます。元任天堂の企画開発者である著者の案内のもと、ぜひ、その驚きと発見に満ちた読書時間を『体験』してみてください。心さえ動けば、それは体験です。(最後の言葉は引用です)



図解眠れなくなるほど面白い 社会心理学

亀田達也監修

1冊読んだだけでは眠れなくなることはないはず。しかし、この眠れなくなるシリーズは、福大に所蔵が多数ありますので、一度に読めば眠れなくなるかもしれないです。お勧めは社会心理学とストレスの2冊です。



歴史



五色の虹 満州建国大学卒業生たちの戦後

三浦英之著

満州国には日本、中国、朝鮮、モンゴル、ロシアのスーパーエリートを集めた建国大学が創立されていた…。

この事実だけで興味をそそられませんか。わずか数年で終わってしまった大学の創設から卒業生のその後までを追ったノンフィクションです。



歴史の屑拾い

藤原辰史著

エッセイというには硬く、評論というには柔らかい、その中間のような文章。著者は現代史の研究者なので、他大学の授業の様子が語られるのが興味深いです。



東大名誉教授がおしえるやばい世界史

和田ラヂヲイラスト；亀マンガ；滝乃みわこ執筆

歴史って面白い。人間って面白い。後世に名を遺した偉人たちにも、いろんな癖があったようです。楽しくこの本を読みながら、歴史の事も頭に入れてみてはいかがでしょう？息抜きにも勉強にもなります。



史料でみる和菓子とくらし

今村規子著

和菓子はお好きですか？これまであまり食べる機会がなかった人にぜひ読んでもらいたい！歴史史料の中から和菓子にまつわる記録を紹介する本書は、当時の人々の暮らしを感じながら和菓子の世界を知ることができます。菓子見本帳や錦絵など見ているだけでも楽しく、読み終わったら和菓子屋さんをのぞいてみたくなりますよ。

お金のこと



お金のむこうに人がいる

田内学著

去年の秋頃、お金について知らないことが多すぎてヤバいと思っていたときに、この本に出会いました。この本を読めばすぐに億り人になれる！といった内容では全然ないのですが、私たちが普段使っているお金について、その成り立ちから価値が発生する瞬間、社会問題の解決のための上手な使い方まで、(エコノミーって、飛行機のなかで息苦しくなるやつだよ？)レベルの私にもわかりやすく説明されていました。お金のことはムズカシイから専門家に任せておこうと思っているあなたがお金の仕組みを知れば、日本経済は、少なくともあなたの身のまわりの生活は良くなるはずですよ(たぶん)。

働くこと



働き方の哲学 360度の視点で仕事を考える

村山昇著；若田紗希絵

新人研修三日目の午後、大学時代の苦手な先輩に似た上司の訓示を聞きながら、これから続く40年の社会人生活のことを考えていました。キャリア、ワークライフバランス、そもそも働く意味とは？もしもタイムリープができるなら、そんな新人にありがちな悩みを持った18年前に戻って読み直したい本です。社会人必携の“働くこと図鑑”と銘打ったこの本は、社会人が避けて通れない『働くこと』に役立つ視点が73点(!)紹介されています。社会人になってあれこれ悩むまえに、ぜひ、学生の曇りない眼で一度読んでみてください。きっと、働くことについての解像度が上がり、新人研修も五月病も乗り切ることができるはずです。ちなみに、18年前の僕はその後転職し、いまは幸せなワークライフを送っております。(本当です)



シェフを「つづける」ということ

井川直子著

シェフという業種や飲食店経営に関するインタビュー本かと思いきや、10年後の自分は何を「つづけて」いるのだろうかと考えさせてくれるノンフィクションです。本文に出てくる『「つづける」ということは難しい。』という一言に、読んだ人はそれぞれ何を思い浮かべるのでしょうか？

釣藤散



芸術



死ぬまでに観に行きたい世界の有名美術を1冊でめぐる旅

山上やすお 著

図書館にいながら世界を旅した気分になれること間違いない



ウィーン・フィルの哲学 至高の楽団はなぜ経営母体を持たないのか

渋谷ゆう子 著

世界最高のオーケストラが、自分たちでチケットの販売から奏者の採用、指揮者の選定など運営全般を行っているなんて、信じられますか？でも事実なんです。クラシックに興味がなくても、組織運営論として読んでもとても面白い本です。



赤めだか

立川談春 著

「修業とは矛盾に耐えること」、現代の基準に置き換えれば全てがパワハラなのですが、「下町ロケット」経理部長の軽妙洒脱な話術に、つつい納得させられます。出世競争や組織の軋轢など、社会の矛盾に負けない作者の強い覚悟が伝わってきます。

身体



目の見えない人は世界をどう見ているのか

伊藤亜紗 著

「なるほど、そっちの見える世界の話も面白いねえ」自分とは違う視点、相手の世界に触れることの楽しさ、大切さを知るきっかけに。

建築



AALTO 10 selected houses

アールト [作]；齋藤裕 著・写真

建築に興味のある人にも、写真集を見たい人にも、北欧を旅したいと思う人にも、インテリア好きにも、英語を学びたい人にも、…おすすめ。個人では高くて手がでない写真集や画集。借りて一人で自宅でじっくり見るもよし、重くて持ち帰りたくない人は図書館に通って眺めるもよし。お気に入りの写真集や画集を図書館でみつけてみませんか？

ゲーム



桜井政博のゲームについて思うこと

桜井政博 著

筆者の名前にピンと来なくても、「スマブラとカービィの生みの親」と言えば分かるかもしれません。2015年～2019年の日々の事がベースになっているので2023年現在のゲーム事情としては古いネタもありますが、VOL.552(2018.4.5)「フレームを計れるようになれ！！」の記事は思わず頷きながら読んでしまうはず。

釣藤散

数学



解きたくなる数学

佐藤雅彦, 大島遼, 廣瀬隼也 著

数式を一生懸命覚えたとして大人になったら使うのかと疑問視していた学生時代……。こんな使い道や教え方だったら数学に興味持ったかもしれません。



社会について



みらいめがね それでは息がつまるので

荻上チキ, ヨシタケシンスケ著

「りんごかもしれない」「もうぬげない」などの絵本で話題のヨシタケシンスケの絵を言葉で楽しく読みやすいエッセイとしても、いじめ、フェミニズム、メディア、政治・経済に言及する気鋭の評論家荻上チキの鋭く深いエッセイとしても読める1冊。

・人はそれぞれのやり方で、幸せになればいい。P.16

・「今の所属」にとらわれない思考をするために、あちこちを歩き、話を聞くことの大切さを感じる。P.147

・小説経由だろうとテレビ経由だろうと同じこと。それをどう血肉化するかは、これから何を学ぶかによってかわるんだろう。P166-167
もっと深く知りたいと思った人へ。

- ✧ ①図書『みらいめがね2:苦手科目は「人生」です』荻上チキ, ヨシタケシンスケ
- ✧ ②図書『日本の大問題:残酷な日本の未来を変える22の方法』荻上チキ
- ✧ ③ラジオ「荻上チキ・Session」TBSを聞いてみても…。



世界と私のA to Z

竹田ダニエル著

アメリカの10代~20代たちがどのようなことを考えているかを知りたくて読んでみました。国や世代、というよりも、今を生きる人が共有している切実さを感じられました。



#Z世代的価値観

竹田ダニエル著

アメリカのZ世代が、何を思い、どう行動しているのか、とても秀逸な分析でありながら、著者の、言葉の力でより良い世界に変えて行きたい、というマニフェストの書でもあると思いました。



140字の戦争 —SNSが戦場を変えた

パトリカラコス, デイヴィッド【著】/江口 泰子【訳】

SNSによって、戦争は兵士だけが戦うものではなく、民間人もスマートフォンを使って「戦う」ことができるようになりました。特に2014年のウクライナ東部戦争、イスラエルのガザ侵攻についての章は、2023年の今起こっている戦争と比べて考えてしまいます。



ここじゃない世界に行きたかった

塩谷舞著

2015年からWebライターとして書いた記事はバズりまくり、「インフルエンサー」、「バズライター」としてメディアで取り上げられた塩谷舞。

しかし著者は次第に『化粧したほうの私』だけが存在を許される世界で『生きることに違和感を持ち、『競争社会で闘わない—私のルールで生きる』ことを決意し、実践していく。

本文中で引用された余りにも有名な上野千鶴子の東大入学式祝辞の一節「女性学を生んだのはフェミニズムという女性運動ですが、フェミニズムはけっして女も男のようにふるまいたいか、弱者が強者になりたいという思想ではありません。フェミニズムは弱者が弱者のまま尊重されることを求める思想です」が心に残った。



往復書簡無目的な思索の応答

又吉直樹, 武田砂鉄著

ご存じ? 芸人・又吉と今をときめく? 批評家・武田砂鉄との手紙のやりとり。全ての手紙は見開き2ページ。空いた時間に1通読む、気になったタイトルの手紙だけ読む、もちろん最初から順に読む、もあり。

ちなみに手紙のタイトルには、
・「今日、調子いいね」という呪縛(又吉)
・(笑)の入れ方(武田)
等々が並びます。
手にとって、まずひとつ読んでみて!



書店員



出会い系サイトで70人と実際に会ってその人に合いそうな本をすすめてくれた1年間のこと

花田菜々子著

今年のブックオカで書店員がおススメしていた1冊。

あやしいタイトルと表紙を裏切る内容。

本の帯には

「勇気もらって、感動して」(武田砂鉄)

「強烈な自己啓発本」(能町みね子)

「究極の書評の形」(岸本佐知子)

の文字が並ぶ。

私はこの本で、こんなにも様々な本があって、こんなにも人に本をすすめる多様な方法があることを知った。

図書館員として恥ずかしかった。

暗がりて本を読む

徳永圭子著

書店員さんの、お仕事と本についてのお話がたっぷり詰まった吹き寄せのような本です。

次はどんな本を読もうかな?と思った時、落ち着いた文章を読みたいなと思った時におすすです。実は著者は本学人文学部の卒業生。先輩のお話を聞きたいという方にも推したい本です。

詩・短歌



詩集 幸福論

若松英輔著

鞭を打つ

おのれに
鞭打つのは 止めよ
愛する人のように
みずからを
いつくしめ



引き出しに夕方をしまっておいた

ハンガン著; きむふな, 斎藤真理子訳

詩はよくわからないと思いながら、好きな小説家の詩集が出版されたので読んでみました。やっぱりよくわからないですが、折に触れて読み返したいと思いました。



玄関の覗き穴から差ししてくる光のように生まれたはずだ

木下龍也, 岡野大嗣著

図書館では外されている本の帯には「男子高校生の七日間をふたりの歌人が短歌で描いた物語、217首のミステリー。再注目の新世代歌人、初の共著。」とあります。

7/1 Thu

電波ひろえないラジオになりければ午後の授業はきれいなノイズ

7/2 Fri

カーストの中の上らのぞろぞろが渡り廊下で中の下段

7/3 Sat

追うべきはボールではなく夕暮れの小さな背中だったんだろう

7/4 Sun

Googleに聞いてもヒット0だからまだ神にしかバテてない

7/5 Mon

愛(業務用)をください。愛(家庭用)はだれかにあげてください。

どんな一首があなたは気になるのか。その一種からあなたにはどんな景色が見えるのか。短いコトバから受け取るものは様々。ぜひあなたも体感してください。

文学



最後のライオニ 韓国パンデミックSF小説集

キム・チョヨプ [ほか] 著
斎藤真理子, 清水博之訳, 古川綾子訳

数年前には想像していなかった、コロナウイルスによるパンデミック。全世界パンデミックを経験した世界なんてめちゃくちゃSFっぽいなと感じていた頃、本書に出会いました。パンデミックをテーマに、著者の違う6つの短編が収録されています。韓国語を知っていたらより楽しめる物語や、切ない物語など、ハードSFとは違った面白さがあります。KPOPだけでなく、韓国文学にも触れたい方にもおすすめです。

フラ子



箱庭図書館

乙一著

ゆるやかに繋がる短編集。イタかったり、ゾっとしたり、もどかしかったり、自分の中のいろいろな感情が刺激される一冊。「あとがき」もぜひ。

11番



十角館の殺人

綾辻行人著

世界をひっくり返す《たった一行》の衝撃をぜひ味わってください。実写化の難しい作品、読むことで活きる作品です。



白い鶴よ、翼を貸しておくれ チベットの愛と戦いの物語

ツェワン・イシエ・ペンバ著；星泉訳

辺境の地、チベットに暮らす人々が中国共産党に追い出されるまでの物語…と聞くと深刻なお話のように感じられますが、バディものの歴史冒険アクションと言ったらどうでしょうか。チベット文学との幸福な出会いをしたいなら、最適な本だと思います。



スティル・ライフ（芥川賞全集14巻）

池澤夏樹著

#友情 #平凡 #非凡 #宇宙好き
#山好き #川好き #日常 #非日常
#大人呑み #完全犯罪



ナミヤ雑貨店の奇蹟

東野圭吾 [著]

読み終わったら心がぽかぽかする、冬にお薦めの一冊です。人と人との縁が奇跡を起こす、優しい謎解き小説です。



満願

米澤穂信著

この短編集では、それぞれの事件の真相が明らかになった時、意外な動機にはっとさせられます。同時に、誰もが大切なものを守るために鬼になる可能性を秘めていると思いきり、ぞっとするのです。

もんぶらん



セミ

ショーン・タン著；岸本佐知子訳

「文字のない本」として話題になった『アライバル』（福大図書館にも所蔵あり）の作家ショーン・タンによる2019年の作品です。会社勤めをする“セミ”が主人公。人間社会における皮肉をユーモラスに描いたお話です。

時計仕掛けのオレン家





朗読によるクリスマス・キャロル

チャールズ・ディケンズ作；井原慶一郎訳

「クリスマス・キャロル」という言葉は聞いたことがありますよね。私は去年のクリスマスにこの本を読んで毎年クリスマスには読み返そうと決めました。

彼氏彼女と過ごすクリスマスも素敵。友人と盛り上がるクリスマスも、家族とケーキを食べるクリスマスも楽しい。

でも——

ひとりでゆっくりこの本を読むクリスマスが私は好きです。

☆おまけ☆

図書館にはほかにも『クリスマス・キャロル』を所蔵しています。底本や訳者の違いを読み比べてお気に入りの『クリスマス・キャロル』をみつけてください。

DVDもあります。視聴は中央図書館2FのAVコーナーで。もちろん、原書(英語)も所蔵しています。チャレンジしてください！！



ウメ子

阿川佐和子著

発行が1998年と古いですが、中学生の頃に読み、今でも大事に本棚に入っています。

出会いは幼稚園。私「みよちゃん」と変わった女の子ウメ子との物語。

エッセイスト阿川佐和子が描くやさしい世界。

時計仕掛けのオレン家



通りすがりのあなた

はあちゅう [著]

何かと話題の人気ブロガー はあちゅう。彼女の描く小説、もの凄く好きなのです。コロナに振り回された大学生諸君。恋愛に臆病になっていませんか？

こちらの作品はオムニバス形式になっております。

どんな恋愛がしてみたいですか？



ラブレター

岩井俊二 [著]

岩井俊二作品の中でも一番好きな本です。(1995年に映画化)

“亡くなったフィアンセから手紙の返事が届いた”。主人公は図書館で働いています。

懐かしい図書室と本の匂いと共に、過去と現在を行き来しながら、物語は甘酸っぱいらすとへと。

時計仕掛けのオレン家



呪文

星野智幸著

何が希望で何が悪夢なのか？

誰がヒーローで誰が悪魔なのか？

私達は何にすがり誰とささえ合って生きていくのか？

私にとっての、自分たちにとっての「呪文」とは…？



ムゲンのi(アイ) 上・下

知念実希人著

医者であり霊能力者でもある主人公が、特殊な病を抱え眠り続ける患者の夢の中に入り、心の傷を癒していくお話です。暗い話ではなく、ファンタジー要素多めでほっこり優しい気持ちになりながらも、ミステリー要素もあり、最後のどんでん返しにワクワクするととても面白い作品でした。医療×ミステリー×ファンタジー！！



いとエモし。：超訳日本の美しい文学

koto [訳] 著

最近こういうイラストの本が多いですね、文豪の文庫とか。1冊全てイラスト入りで見ごたえあります。エモいという言葉がなかったころから、そう思っていたよ！冒頭の「はじめに」でうなずきます。



時計仕掛けのオレン家



お探し物は図書室まで

青山美智子著

TIME誌の「2023年の必読書100冊」に日本人作家として唯一選ばれました！！2021年本屋大賞で2位となったこの本。すでに「読んだヨ」という人も多いのでは…。

TIME誌のコメントでは「著者による人物への共感と、細部へのこだわりを認め、とくに『本の力』を希望に満ちた形で表現してみせたことを評価」とあります。

・「どんな本もそうだけど、書物そのものに力があるというよりは、あなたがそういう読み方をしたっていう、そこに価値があるんだよ」(p165)

・親たちの教えるサンタクロースは、けっして「嘘」ではなく、もっと大きな「本当」です。私たちの中にある「太陽の目」と「月の目」は、そんなふうに協力しながら、どちらも否定せずに世界を受けとることができるのです。(p.181)

私の心に残った文章です。

あなたの心にはどんな言葉が届くでしょうか…？

